

時事新報

第三千八百八十四號
 明治二十四年十一月十二日(壬寅)
 舊曆辛卯十月十一日
 日 出 午 前 六 時 五 分
 日 入 午 後 四 時 三 十 分
 月 入 午 前 二 時 三 十 分
 月 入 午 後 十 時 三 十 分
 兩 年 報 費 一 十 五 元
 一 年 報 費 六 元
 一 月 報 費 五 角
 (西曆一千八百九十一年)

大地震の付義 捐金募集廣告

安政の江戸大地震は早や三十七年の昔と爲り當時の有様は今尚ほ故郷の語る所にして一夜忽然其耳に水の大震動、地震に遭ふて地覆たるを悟らず七轉八倒の間に煙燭滿市に親子を見殺して泣くれば妻が夫を求めて叫ぶあり走り土塵の鬼瓦に頭を碎かる者あり髪に足を敷かれて死ねぬ者あり市中近郷幾萬戸の焼失、幾萬人の死傷、大都會にして古戰場と爲る其物語はいよいよ聞いていよいよ恐ろしけれども唯ひかしの事として開流せしに何を料らん今回は駿東大垣名古屋を始として何十里内一面の地方に正しく江戸の大地震を再現して修羅の慘狀を呈し昨今來の電報通信に接していよいよ其事情を詳にすればいよいよ酸鼻に堪へず然かも其日は本月二十八日にして舊曆の九月二十六日に當り安政二年の變は十月二日のみとされれば前後七日の相違にして二度の天災とは三十七年久しと雖も目前に見るが如し左れば當府下を始めとして遠近の地方にて奇も慈善の志あらん人々を善を懐ひ今を憐み多少の金を捐て被害地方の死者負傷者貧困者を救ひ給はんんと切望に堪へず但し其義捐金は當時事新報社に當て現金にても爲替にても到着次第みれを取纏めて其筋に使用法を托し又その義捐者の姓名と金高とは時々本紙上に記して請取書に代ふ可し

一 義捐の金高は一口十錢以上の事
 但し郵便切手代用は謝絶、尙ほ爲替振出先きの郵便局は東京芝口郵便局に限る

一 義捐金贈取の期限は來る十一月十五日までの事
 東京市京橋區南町二丁目十二番地
 明治二十四年
 十月二十九日
 時事新報社

時事新報

官等令を設くるの必要あり

政府にて近日更に官等令を發するの議ありと云ふ抑も官等令とは如何なるものなりやと云ふに過般の官制改革は職給の精神にして勅任何等委任何等と云ふ官職の等級を廢したれども之が爲めに不都合を生じたるは官中儀式的場合に於ける席順にして單に俸給の多少又は任命の先後に由りて之を定むるときは其次第複雑にして實際に差支少なからざるより切ふと官等を再興するの必要を感じたるものなりと開けり官中に於ける席順は人々の榮華富貴に關して最も鄭重を要する所のものなれば、忽にす可らざるも勿論の儀なれども我輩の所見を以てすれば其席順は今日と雖も現に秩序の正しきものありて毫も職給の制に違着せざるを信するなり抑も政府の事務は一種の營業にて官吏たる者は銘々の材能技能に由りて職を務むるものなれば其部内には自から部内の規律あり即ち部下の者は身分家柄に拘はらず上官の命に従ふて事務に服するものとされども官

官報

○司法省告示第百四號
 仙臺地方裁判所管内仙臺區裁判所吉岡出張所大河原區裁判所白石出張所古川區裁判所中新田出張所裁判所
 本年十二月一日起一限り開廷セス
 明治二十四年十一月十一日
 司法大臣子爵田中不二麻呂

雜報

○朝鮮の一貴族、米國に客死す 朝鮮の一貴族スウェン氏は數年前、外國に於ける文明進歩の模範を視察せしめんが爲め本國政府より派遣を命じたる特命使節の一行と共に米國に渡り遂に米國に永住するの決心を爲し歸國を拒みしかば本國に於ける私有財産は悉く没收せられたれども少しも屈せず農業に志してメリーランド農科大學に入り去る六月卒業の上、米國農務省に奉職し支那日本及び朝鮮の農業に關する書類の反譯に從事し近頃本國政府に歸國の許可を請願したれ共拒絶せられしが客月二十三日メリーランドのコーレツト停車場にて汽車に觸れ死したるよし米國華盛頓府よりの近報に見ゆ

○オランダの 靈智協會々長米人オランダ氏は嘗て本紙上に記したる如く愈々米國を経て去月二十九日に横濱へ來着したりしかど直に神戸へ出發し夫より京都に赴き祇園の中村樓に滞在して該地の佛教家と往來して去る八日は同佛教家の爲めに一場の演説を爲し佛教擴張に關する意見を述べ終りて懇親會を開きたるよし尤も同氏は印度の歸國を爲る爲め翌九日には歸途に就く筈ありと云ふ

○炭礦鐵道會社株主總會 同會社にては一昨十日午後一時より本町町厚生館に於て株主總會を開きしが最初の定式會は談論あつて濟み直ちに臨時會に移り創立規約第十二條の計算法を改正して補給利息と益金を區別し且つ接待費を本社費より除いて純益金の内より支拂する事と爲すの件を議せしに是れも格別異論あつて可決し次に検査役北村英一郎金井信之二氏滿地に付き改換の事を評議せしに別段選舉を行はずして再撰するとし最後に常議員吉川泰二郎氏辭職に就ての補欠選舉を行ふことありしは當分社長に兼任を托するものと定めて同三時頃散會せり同會社本年上半年の損益勘定は左の如くあり

○石狩國上川郡の近況 同郡は計畫ある上に永山、旭川、神居、爾來大に同道人民の注意を惹起す住を全てんとする者も少なからず又排水工事とも次第に其歩を進じて北見國網走へ通る中央鐵道早急線工して目下専ら網走の早急線より永山村は本年六月より屯田地めたる新村なるが此開墾地は重々株の樹木を交へざる地所さへは農民も交り居る事ゆゑ其開墾

中の事は之に異なり家の資格に由り又その人の功徳に由り夫れ々の待遇ある次第にて即ち爵位勳等の設ある所以あり今日の實際を見るに有爵の人々は云ふまでもなく政府の官吏にして委任以上のものは必ず位に致せらるゝの例にして殊に勳等を有するものも少なからず其爵位勳等の高下は即ち官中の順序を表するものにして或は爵位勳等なき者も特に社會に重せらるる學者高僧の輩の如きに至りては特別に待遇するものと古今東西の例も少なからず官中儀式的席順と政府部内の秩序とは自から別あるを見る可し左れば官中の席順は爵位勳等に従ひ全く政府部内の秩序と別にして實際に如何なる差支ある可きや之が爲め殊更に官等令を要するの議は我輩の更に解せざる所あり例へば軍人の如きは最も規律の嚴なるものにして或は皇族又は有爵者にして尉官等の職に就くものあれども其皇族たる者爵者たる者に論ずる可き一士官たる以上は一専長官の命令に従はざる可らざる然れども官中の席順に至りては皇族は自から皇族の席あり有爵者は自から有爵の待遇あり其順序の奇も素る可らざるは猶ほ軍隊の規律に異ならず政府一般の官吏と雖も之と同様に或は有爵有位の者にして屬官屬僚たる者もある可し是等の人は事務上に於ては上官の下流に立つも勿論なれども官中の席順に於ては自から上位を占むるものとある可し官中府中の區別甚だ明白なるものあり然るに今や官等なきが爲め官中の順序を定むるに不便なりとて更に之を再設せんとするは此明白なる區別を忘れたるに非ざるか抑も帝室は榮華の源にして爵位勳等の貴きも畢竟この源泉より流出して他に得るものと能はざるが爲めならん若しも政府部内の都合よりして更に一種榮華の名稱を造り其力を官中に及ぼさんとするが如きももあらば唯一の源泉より流出したる爵位勳等は爲めに光を失はざるを得ず決して帝室の尊嚴を保つ所以に非ざるあり元來我輩の所見に於ては帝室の恩光は運く社會の全體を照す可き筈のものなれば爵位勳等の如きも政府に接近の部分に限らず廣く國家に功勞あるものに及ぼし一般社會をして其餘光を仰がしめんどもを願ひし所あれども夫は免れもどして今日の處にては何れ免れもれ唯一の源泉より發する所の榮典として益々榮華ならしむるの策を講ずるも肝要なれ即ち官中の席順の如きは帝室の榮典なる爵位勳等に従ふ可きものと勿論にして若し他の方法に由りて定むるが如きももあらば却て榮典の榮を減ずるものと云はざるを得ず我輩は席順云々の爲めに更に官等を設くるの必要を認むるものあり

○米國博覽會地方委員會 神奈川縣橫濱實業者中より擧定したる米國博覽會地方委員ある茂木利兵衛、大谷嘉兵衛、渡邊三郎、井村彦四郎、大關貞次郎、椎茸正兵衛の諸氏は一昨十日午前十時より縣廳に集集して委員長内海知事及田沼書記官大木泰事官等と博覽會出品に付ての委員會を開きしといふ

○十月限受渡米の模様 東京米商會所に於ける十月限りの受渡高は合計七千二百四十石にして目下検査最中あるが聞く處に依れば渡米の過半数は地廻米にて其中

既に検査済ありし分も數口わ越ヶ谷邊の中等新米にして上五分五厘迄最も品質の惡しき分下三分五厘位の割合を以て受渡の地廻米は品質概ね善良なればの産米に比しては殊の外渡方に同米を渡すもの多き由宛に角本柄あるは近頃珍らしきものと云ふ

○生絲輸出税免除に付横濱同業地方の營業家が生絲輸出税免除の由は豫て本紙に記せし處なれば絲買込問屋諸氏の意見を聞くに生絲輸出税免除を賛成すれども一方一二の大問屋もあり云へば横濱に於て左袒せしむるは少しく困難者は物語れり

○全國收穫米高の比較 大坂堂屋れば本年全國收穫米の見積高は三十四石にして之を昨年の收穫米三十八石九石と比較すれば一割又既得十箇年間の平均即ち平均作十一石と比較するときは僅かにとなり看は之れを各地方に大別の如し

平均に對する本年收穫米の増減

大坂以西山陽道	百八萬五千三百五十五石
大坂以東山陽道	二十八萬七千六百石
關東及東海道	五十五萬四千四百石
北關東一圓羽前	百二萬九千五百四十四石
關東地方及信濃	二萬九千五百四十四石

○石狩國上川郡の近況 同郡は計畫ある上に永山、旭川、神居、爾來大に同道人民の注意を惹起す住を全てんとする者も少なからず又排水工事とも次第に其歩を進じて北見國網走へ通る中央鐵道早急線工して目下専ら網走の早急線より永山村は本年六月より屯田地めたる新村なるが此開墾地は重々株の樹木を交へざる地所さへは農民も交り居る事ゆゑ其開墾

収入の部
 七十三萬九千四百五十九圓九四六
 九萬零四百五十五圓七七七
 二萬五千五百五十八圓七七七
 八十五萬二千六百八十八圓三三五

支出の部
 四十九萬四千七百九十一圓二八一
 一萬二千六百九十四圓
 二萬二千四百七十八圓
 一萬六千零五十六圓
 二十七萬四千三百圓
 (即ち一圓は付金二圓一圓にて年一割強に當る)
 後季繰越金 八十五萬二千六百八十八圓三三五

合計 八十五萬二千六百八十八圓三三五

品名 本年 前年度

東州總計	一〇五四、九四一	二二九、九四一
三上	一四〇、八九二	四四、四四二
三下	四二四、三六四	一七六、四九九
三上	四一、九八三	一三、七三三
三下	三七二、三八一	一六二、七〇〇
支那	一一、二五三	一、九七二
朝鮮	二〇、〇八四	一、四七二
支那	二〇、〇八四	一、四七二
朝鮮	二〇、〇八四	一、四七二
合計	二七九、六八二	二七九、六八二

既に検査済ありし分も數口わ越ヶ谷邊の中等新米にして上五分五厘迄最も品質の惡しき分下三分五厘位の割合を以て受渡の地廻米は品質概ね善良なればの産米に比しては殊の外渡方に同米を渡すもの多き由宛に角本柄あるは近頃珍らしきものと云ふ

○生絲輸出税免除に付横濱同業地方の營業家が生絲輸出税免除の由は豫て本紙に記せし處なれば絲買込問屋諸氏の意見を聞くに生絲輸出税免除を賛成すれども一方一二の大問屋もあり云へば横濱に於て左袒せしむるは少しく困難者は物語れり

○全國收穫米高の比較 大坂堂屋れば本年全國收穫米の見積高は三十四石にして之を昨年の收穫米三十八石九石と比較すれば一割又既得十箇年間の平均即ち平均作十一石と比較するときは僅かにとなり看は之れを各地方に大別の如し

平均に對する本年收穫米の増減

大坂以西山陽道	百八萬五千三百五十五石
大坂以東山陽道	二十八萬七千六百石
關東及東海道	五十五萬四千四百石
北關東一圓羽前	百二萬九千五百四十四石
關東地方及信濃	二萬九千五百四十四石

○石狩國上川郡の近況 同郡は計畫ある上に永山、旭川、神居、爾來大に同道人民の注意を惹起す住を全てんとする者も少なからず又排水工事とも次第に其歩を進じて北見國網走へ通る中央鐵道早急線工して目下専ら網走の早急線より永山村は本年六月より屯田地めたる新村なるが此開墾地は重々株の樹木を交へざる地所さへは農民も交り居る事ゆゑ其開墾